

埴保己一先生遺徳顕彰祭によせて

音楽物語

バリトン 新井健士

今に生きる

はなわ

今こそ埴

こども講談 藤井陽愛

こども講談 若月遥翔

希望

小鼓、能役者 今井尋也

「埴は人にあらず、書物の精が生まれ変わったのだ」
松平定信の言葉

フルート 綱川泰典

フルート 綱川泰典

保己一

「埴先生は、わたしの人生の目標、心の支えです。苦しいとき、悲しいとき、先生のことを想い、頑張ることができました。そして、現在のわたしがいるのです」
ヘレン・ケラーの言葉

「検校は大人物である。学者で、文人で、歌人である。実業家で、政治家でもある。性格はユーモアに富み、無欲潔癖、活動的、最後に記憶力をあげておこう」
洪沢栄一の保己一評

語り・ピアノ 光野真理

語り・ピアノ 光野真理

紙芝居 堺正一

2023年 9月9日(土) <開演> 午後2時 <開場> 午後1時30分

<会場> 児玉文化会館 セルディ

(本庄市児玉町金屋728-2 TEL:0495-72-8851)

主催/「埴保己一先生を講談で聴く会」 共催/「Love Sounds」

後援/本庄市・総検校埴保己一先生遺徳顕彰会・本庄市教育委員会・公益社団法人 温故学会

協賛/株式会社 渋沢 マルコーフーズ株式会社 赤城乳業株式会社

保己一立像 江戸へ出立

音楽と講談で綴る 「今に生きる、今こそ塙保己一」

古代から近世末期まで、歴史・文学・宗教・言語・風俗・美術・音楽・遊芸・教育・道徳・法律・政治・経済・社会・その他各分野にわたる全書目を分類収録した一大叢書を編纂した“塙保己一”（はなわほきいち、1746～1821）の偉業を、生演奏と講談で語り伝える、音楽と講談で綴る「今に生きる、今こそ塙保己一」の催しを企画いたしました。

目的

景気の低迷、長いコロナ禍により、生きる力、生きていく方向を見失いかけている現代人へ、7歳で失明して多くの困難を抱えながらも、家族の反対を押し切って上京し学問の道へ進み、上記の叢書「群書類従」を34歳から完成まで亡くなる直前の74歳まで、41年かかって編纂した前人未到の偉業を成し遂げた、郷土の誇る“塙保己一”の生き方、精神性を紐解き、私たちの住む大切な地球の未来を背負う次世代へのメッセージとして、こんな今だからこそ、塙保己一の生涯の物語を、同じ障害を抱えながら社会に貢献している音楽家を招き、講談という大切な日本の文化を継承する子どもたちにも演じてもらいながら語り伝えることで、より多くの人々に生きる勇気と自信を取り戻していただくことが目的です。

活動の紹介 「塙保己一先生を講談で聴く会」では、塙保己一の大きな功績を広く知ってもらう為、皆様にご協力をいただきながら下記の講談会を開催してきました。

講談・説経節
 日替 令和元年 8月4日(日) 入場料 1,000円
 午後1時より(開場12時30分 開演13時)
 (会場) 日本学生銀行種彦会館
 種彦本会事務局 TEL: 0435-22-0828

講談会
 一龍斎貞鏡
 11月10日(日) 午後2時
 入場料 500円

講談会
 一龍斎貞鏡
 11月8日(日) 午後2時
 入場料 1,000円

講談会
 宝井琴梅
 9月20日(日) 午後1時
 チケット代 1,000円

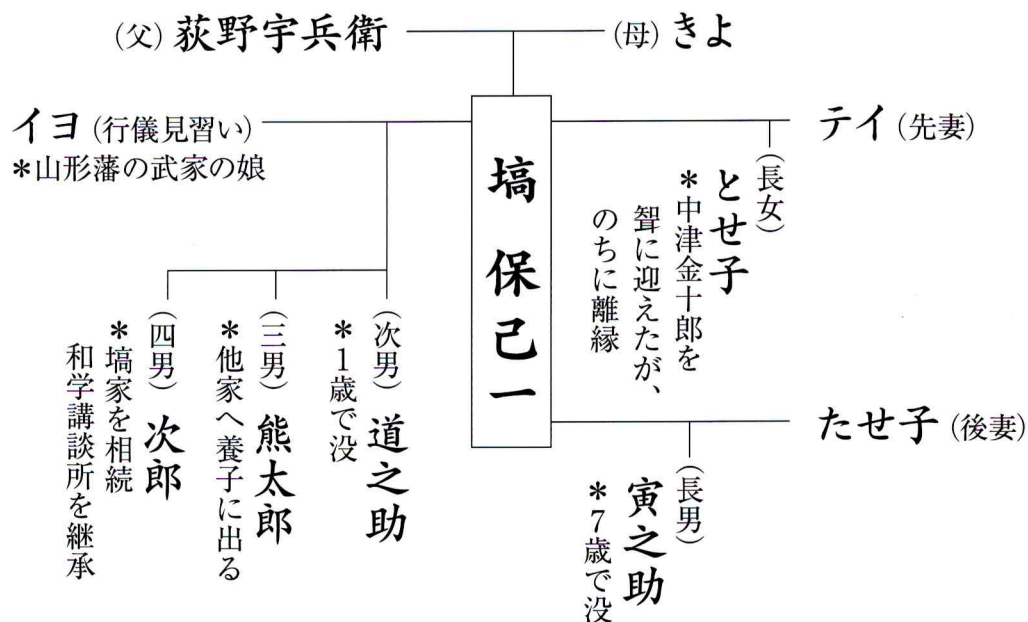
宝井琴梅
 令和3年 1月17日(日)
 チケット代 1,000円

宝井琴梅
 令和3年 7月24日(日)
 チケット代 1,000円

宝井琴梅
 令和3年 10月17日(日)
 チケット代 1,000円

宝井琴梅
 令和3年 10月2日(日) 午後1時
 チケット代 1,000円

塙保己一の家族関係図



「音楽と講談で伝える塙保己一の信念の生涯」

【出演】 綱川泰典 (FI) 今井尋也 (小鼓、能楽師)
 新井健士 (バリトン)、Marilyn 光野真理 (ピアノ、歌、語り)
 若月遥翔 (こども講談)、藤井陽愛 (こども講談)
 堺 正一 (紙芝居)

【脚本】 堺 正一著「今に生きる 塙保己一」より

【あらすじ】 保己一の最初の妻との間に生まれた長女とせ子 (ピアノ語り) が、塙保己一の秘話を語る。その途中に生演奏やこども講談を入れ、後半はとせ子が父塙保己一と、実の母テイを偲んで音楽会を開く。

(とせ子) …私が3歳の時、とうとう母は父のもとを去っていったのです。…この歳になってみますと、幼い私を盲目の父のもとに残して家を出ていかなければならなかったテイという一人の女性の心の苦しみが、なんとなくわかるような気がします…万が一にもいつか再会することがあったら、「あなたの娘は、塙保己一の娘に生まれて幸せでした」そう一言伝えたいのです。

【挿入曲とこども講談】 「グノーのアヴェ・マリア」「オー・ソレ・ミオ」「白鳥」
 「カタリ・カタリ」「武蔵野の空に抱かれて」「講談 若月遥翔」「アメージング・グレイス」
 「愛の喜び」「般若心経」「幸せの風」「講談 藤井陽愛」「闘牛士の歌」
 「チャルダッシュ」「絆」「千の風になって」「ふるさと」

出演者のご紹介



新井 健士 [バリトン]

群馬県出身。山形大学教育学部生涯教育課程音楽文化コース卒業。同大学院を1年次まで在籍後、東京音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻オペラ研究領域に入学し修了。学費免除でドイツ国立シュトゥットガルト音楽大学マスタークラス修了。第7回日光国際音楽祭声楽コンクール本選入選上位入賞。第4回なかの国際声楽コンクール第2位。浜の風コンクール2020最優秀賞受賞。オペラ・オペレッタではW.A.モーツァルト作曲「フィガロの結婚」フィガロ役、「コジ・ファン・トゥッテ」グリエルモ役、ドン・アルフォンソ役、「ドン・ジョヴァンニ」レポレッツコ役、マゼット役、「魔笛」パパゲーノ役、G.ドニゼッティ作曲「リタガスパロ」役、G.ヴェルディ作曲「ドン・カルロ」ロドリゴ役、「リゴレット」リゴレット役、「仮面舞踏会」レナート役、「椿姫」ジェルモン役などを務める。また、L.V.ベートーヴェン作曲「ミサ・ソレムニス」、「第九」、W.A.モーツァルト作曲「レクイエム」などのバスソリストを務める。声楽を秋山隆典、小森輝彦、高橋啓三、藤野祐一、トーマス・プファイアー、コレペティトルを森島英子、木下志寿子の各氏に師事。ぐんま藤岡市民オペラ代表。藤岡市民合唱団講師。ヘルシーコーラス講師。東京音楽大学非常勤講師合唱研究員。ホームページ <https://araikenji.com>



綱川 泰典 [フルート]

1976年生まれ。埼玉県出身。10歳よりフルートを始める。武蔵野音楽大学卒業。「第42回全日本盲学生音楽コンクール」第2位(1位無し)入賞。「ウインズ・ソロコンテスト」金賞及びヤマハ賞、「第6回ベストプレイヤーズコンテスト」部門優秀賞、「第10回日本クラシック音楽コンクール」全国大会入選、「第1回ドイツ音楽コンクール」優秀賞受賞。2度のリサイタルやコンサートの企画、全国各地での演奏活動を行う一方、カーネギーホールやウインザー城での演奏等海外でも活躍。その他2枚のCDの録音、TV出演、後進の指導も行っている。日本フルート協会会員。2008年、「第1回堀保己一賞」奨励賞受賞。音楽を通じてバリアフリー交流を目的とした障害者中心の音楽家集団「Team AURORA(アウローラ)」のメンバーとして演奏活動を展開。リサイタルやコンサートの企画、全国各地での演奏を行う。筑波大学附属視覚特別支援学校非常勤講師。第1回堀保己一賞受賞者。



今井 尋也 [小鼓・能役者]

(脚本・演出・能役者・小鼓演奏家)2021年日本演出者協会優秀演出家賞受賞。シルクロード能楽会代表。武蔵野美術大学非常勤講師。幼少より祖父から能楽を学び、十代で初舞台。国立能楽堂研修生・東京芸術大学音楽学部を卒業後、渡仏し、現代演劇、コンテンポラリーダンス等を学ぶ。ローカルでグローバルな身体性を内包するパフォーマーとしてフランスの振付家の作品から舞台作品等に多数出演するほか、国内では、串田和美、小池博史BP等演出の舞台に出演し、現代劇や音楽劇、コンテンポラリーダンスまで幅広く活躍。また、脚本・演出家としてもシルクロード能楽会をはじめ幅広く活躍し、神話や民話を題材としたオリジナル脚本と共に能楽の演出方法を用いた斬新な舞台は多くの評論家の支持を集めている。アウトリーチ活動にも積極的に参加し、障害者の施設や小中高学校でワークショップを実施。新作能の脚本・演出・音楽多数。2021年公益財団法人東京都歴史文化財団アートカウンシル東京助成事業にて「ハリ姫神話」を梅若能楽堂にて上演、作・演出・音楽・出演。等々フリーの小鼓演奏家として国内外を問わずジャンルを超越して活躍中。古典からジャズ、現代音楽まで、迫力の肉声と美しい鼓の音色で小鼓演奏の可能性を極限まで追求している。



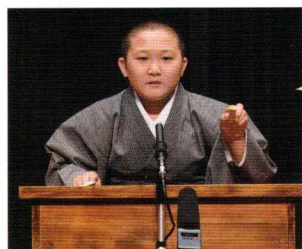
光野 真理 [語り・ピアノ]

山山市東方町に生まれる。済美高校音楽科～武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。在学中より、故平間文寿氏主宰声楽研究所「しのぶ会」の専属伴奏者となり、声楽も同氏に師事。卒業後は、講師活動及び様々なシーンでニーズに合わせた演奏活動を展開。地元の文化芸術の発展と、国際交流の推進企画プロデュースも手掛け、平成18年に、外務大臣より感謝状受賞。その後、地域に「より良いものをより身近に」をコンセプトに、任意団体「Love Sounds」を立ち上げる。日本の四季折々移り変わる自然の美しさと先人達が残した歴史の中に、人の幸せは自然と共に、さりげない日常の中にあると気づき、音楽と映像で綴るDVD「大多摩龍の玉伝説」をプロデュース。近年ではジャンルを超えたアーティストと共に、和と洋のコラボで、歴史物語を音楽で語る舞台を企画演出し、自身もピアノを弾きながら語りと歌で、クラシック、ジャズ、ロック、ポップス、邦楽、雅楽、能楽、神楽等音楽のみならず、演芸(落語やマジック等)、さまざまな美術家、舞踊家等を融合した舞台作りを自作自演している。作詞作曲も手掛け、御岳山に咲く、「レンゲショウマの唄」「幸せの吉野峡」「武蔵野の空に抱かれ」「愛の光」など作詞作曲。平成24年8月東京都倫理法人会設立30周年記念 ミュージカル「幸せになる法則を見つけた男(ひと)」の作曲を担当する。ミュージカルのボイストレーナーや、若手音楽家の育成、ジャンルを超えたライブ活動、他の芸術とのコラボ企画など、生演奏を通して心の絆を広げていく活動で、次世代の未来永遠の幸せと、地球の平和を願っている。



堺 正一 [紙芝居]

1943年、埼玉県川越市生に生まれる。早稲田大学法学部・同教育学部卒業。県立高校の教員を経て、心身に障害のある子どもたちの教育にたずさわる。埼玉県教育委員会、各種障害児学校の校長等を経て立正大学教授。特別支援教育の教員養成を担当する。この間、障害児者理解啓発のために「平和と障害児教育」をテーマに講演・著述・ボランティア活動に取り組んでいる。人権、平和に視点を置き、高齢者施設、障害者施設、保育所・幼稚園、公園等において紙芝居を上演。福祉施設での定期公演をはじめ、街頭紙芝居、国策紙芝居、文芸紙芝居、教育紙、芝居等の公演を続けている。著書に『堀保己一とともに ヘレン・ケラーと堀保己一』『続堀保己一とともに いまに生きる盲偉人のあゆみ』(ともにはる書房)、『素顔の堀保己一 盲目の学者を支えた女性たち』『埼玉県の三偉人に学ぶ』(ともに埼玉新聞社)等多数。第15回堀保己一賞受賞者。



若月 遥翔 [こども講談]
(本庄市立金屋小学校6年生)

僕は、昨年から講談を始めました。宝井琴鶴先生に、何度か稽古をつけていただきました。目線や声の強弱だけで話を進めていく事が、とても難しいです。でも、塙先生の事を講談で話していると、塙先生を身近に感じるような気がします。そして、僕のつたない講談でも、皆さんが笑ってくれたり掛け声をかけてくれる事があり、とても嬉しいです。これからも、講談で塙先生の事を伝えていきたいです。



藤井 陽愛 [こども講談]
(本庄市立藤田小学校5年生)

私は、講談や劇に参加している時、とても緊張します。講談の難しいところは、場面によって言い方が変わるところです。何か、大変な事が起きた時は、重々しくいったり、強調したりするところ。自分の講談を聞いて、お客様は、場面の様子が浮かぶかな、等を考えながら練習しています。講演後の達成感は大きく、やりがいがあります。これからも、講談や劇を頑張りたいです。